

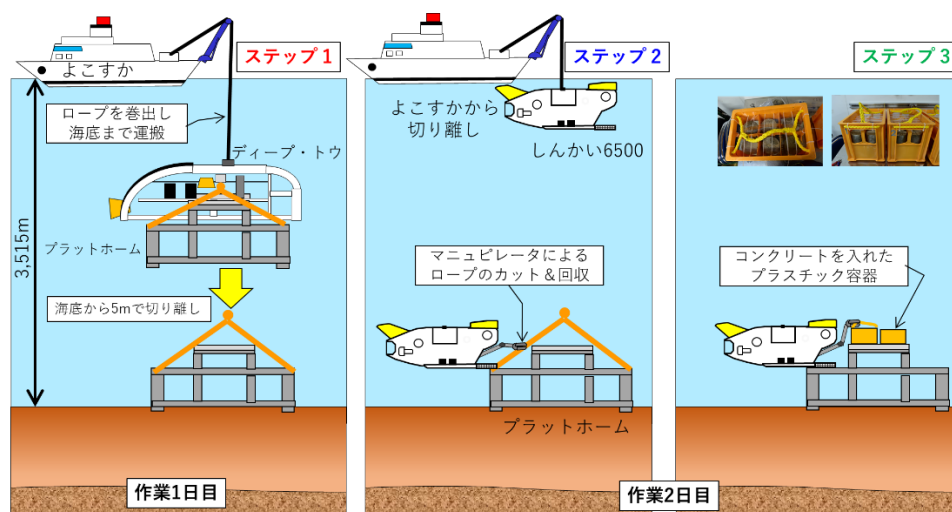
海底 3515m におけるプラットフォームの設置とコンクリート供試体の設置

○野村 瞬・笠谷貴史（海洋研究開発機構），
迫井裕樹（八戸工業大学），松本朗，深田久（不動テトラ）

深海域において観測・計測機器を展開する場合には，設置環境全体を俯瞰して予想される変動に対して対策しておくことが重要であり，長期間展開する場合にはデータに設置場所の経年変化による誤差が生じない措置が必要になってくる．現在，海中での構造物の設置には陸上と同様にコンクリートを用いて構造物を固定しているが，コンクリートの耐久性や経年変化による質の変化は，陸上や浅海域で得られた評価試験結果しかなく，深海域特有の環境による変化を分析したデータは存在しない，今後益々増加すると考えられる海中へのコンクリート構造物の設置ニーズに対する基礎データを得るため，YK18-09 航海では南海トラフ北縁部の水深 3515m の地点で長期曝露試験を行うためのコンクリート供試体を設置した．

航海では深海におけるコンクリート供試体の長期曝露試験のため，①「YKDT」により海面下 3500m に供試体曝露用の海底着座型プラットフォームの設置，②「しんかい 6500」によりコンクリート供試体をプラスチックバスケット運搬し，次年度以降に経年的な曝露試験結果を得るための準備を行った．

航海の概要と作業内容とともに，今後の研究の方向性の紹介を行う．



作業概要